

№. 377【2019年10月11日配信】
昭和44年台風9号による水害(担当:村上)

こんにちは。嘱託員の村上です。

市民図書館は10月14日まで蔵書点検のため休館していますが、歴史資料室では15日から始まる新しい館内展示の準備を進めています。今回の展示のテーマは『災害の記憶』を忘れないー地震・豪雪・台風ーです。この展示は昭和44年(1969)8月の台風9号による豪雨災害から今年で50年となることを受けて企画しました。

昭和44年8月22日、九州に上陸した台風9号は、各地に被害をもたらしながら北上を続け、23日には仙台湾で温帯低気圧に変わり、消滅するものとみられていました。そのため、青森県内に大きな影響はないと考えられていましたが、23日午後10時過ぎに台風が温帯低気圧に変わったあとも、県内各地で激しい雨が降り続けました。

青森市では23日夕方に降り始めた雨がやがて土砂降りとなり、午後11時には八甲田山系に降った雨が100ミリに達しました。山間部に降った雨は荒川・駒込川に流れ込み、警戒水位を超えて増水を続けました。市は24日午前1時に災害対策本部を設置して対応にあたりましたが、河川の堤防が数か所で決壊し、1万戸以上が浸水被害を受ける大水害となりました。

特に被害が大きかったのは桜川団地と花園町で、多くの住宅が浸水被害を受け、自衛隊や警察がボートによる救助活動を行いました。



増水した堤川
(1969年撮影 広報広聴課蔵)



駒込川に架かる晴雄橋
(1969年撮影 広報広聴課蔵)

また、松原地区では堤川の堤防が決壊したことに加え、堤川へ注ぐ用水路が逆流したことにより、広範囲で浸水被害が発生しました。例えば、現南中学校の前身校のひとつである第一中学校(現棟方志功記念館附近)では1階の教室が床上20センチまで浸水したといえます。

さらに、このとき建設中だった市民文化センター(現中央市民センター)では地下機械室が浸水し、電気設備が壊れる被害が出ています。センターは浸水被害を乗り越え、10月1日に開館しました。



冠水した市民文化センター附近の道路
(1969 年撮影 広報広聴課蔵)



勤労青少年ホーム
(1969 年撮影 広報広聴課蔵)

さて、歴史資料室では中央市民センター開館 50 周年記念のパネル展示「中央市民センター開館物語ー浦町・松原周辺のあゆみとともにー」の制作を担当しました。9 月 30 日まで市民図書館 7 階で開催していた展示をパワーアップさせ、開館当時の館内のようなすがわかる写真やパンフレットを展示したほか、浦町・松原地域の学校や工場などさまざまな施設についても取り上げました。こちらの展示は 10 月 30 日まで中央市民センター1 階で行っておりますので、ぜひご覧ください。

※今回の内容は『よりよい明日のために！！ 災害の記録』(1970 年 青森市)、『青森市地域防災計画』(2019 年 青森市)などを参考にしました。